

研究委員会 2025 結果および 2026 計画・組織

2026 組織 計 6 名 * 順不同・敬称略

メンバー	氏名	理事/ 会員	所属
委員長	青木 稔	理事	文化ファッション大学院大学
事務長	鶴 鉄雄	会員	上田学園
委員	平野 大	会員	国際ファッション専門職大学
	岡田 絵梨奈	会員	香蘭女子短期大学
	森本美紀	会員	和洋女子大学
	宋 ユキ	会員	文化ファッション大学院大学

活動報告

目標	<p>本委員会は学会活性化の見地から、研究者ファーストをテーマに日本の専門職教育の体系化に役立てることに重点を置きながら、国内外の文献研究とファッション企業の事例研究を組み合わせ研究していく。ファッション AI 時代を生き抜くことができる教育カリキュラムの開発が急務となっている現在、本研究会では国際標準に向けて、日本のファッションビジネス教育カリキュラムを研究し学会において提案していく。</p>
2025 結果	<p>2025 年度に計画した以下の項目について成果を達成することが出来た。</p> <p>本計画はファッションビジネス学会の現状分析と問題解決への方向性を合理的に研究するため、下記の計画を実行し完遂した。</p> <p><2025 計画項目と報告></p> <p>① 9 月 8 日（月）ファッションビジネス学会主催 シンポジウム「ファッションの未来」をファッション経営学カリキュラム研究部会と共同で神戸国際大学にて開催した。</p> <p>② 2026 年 3 月 7 日（土）に研究委員会主催「2025 年度研究部会合同発表会」を行った。</p> <p>③ 研究委員会の在り方と研究部会の在り方を再構成するミーティングを行った。</p> <p><2025 年度研究の総合結果></p> <p>①前々年度の「企業の採用状況から分析する修士号・博士号取得者に関するジョブ型雇用の重要性」の研究により、グローバルスタンダード時代における企業側の修士号・博士号取得者への雇用ニーズが高まってきていることが明らかとなった。</p> <p>そのために、「ファッション経営学カリキュラム研究会」と連携する形で合同研究を行いジョブ型カリキュラムに基づいた「マネジメント教育セミナー」をスタートさせ、セミナー参加者の意見を参考にしながらリカレント教育の構想を練り上げた。実務としては、事前のシンポジウム資料作成/オンラインによる各種ミーティング参加/シンポジウム運営となる。</p> <p>②今年度の定期総会において年間計画として承認された年度末の研究部会による研究部会合同発表会を行い 13 部会の発表となった。（発表予定は 15 部会）</p> <p>研究委員会委員も半数の人数が参加し、司会進行を研究委員会委員長が行った。</p> <p>発表内容は、各部会長の自己紹介、部会の主旨/目的、部会長/事務局、部員数、活動報告および次年度の活動計画となる。</p> <p>③研究委員会の在り方を再構成し研究部会の構造分析を行いオンラインによるミーティング、各種の調査、分析、資料作成などとともに、研究部会を構造分析した結果として新機軸の研究部会を発足する必要があるため「推し活研究部会」の発足を承認することに至った。</p>

2026 計画	研究委員会の在り方を再構成し研究部会の構造分析の検討、実施とする。 また、日本のファッションビジネス教育カリキュラムを研究するために委員を増員させることを検討する。
------------	---